



地場産食材が給食に登場



町民からとうきびとわかさぎの提供があり、町内各小中学校の給食に登場しました。

とうきびは、洞爺地区が8月23日、虻田地区では8月24日に給食のメニューに並びました。提供したのは、塩田 満さん(洞爺第4)で、「ふだん市場に出ないめずらしい品種なので、子どもたちにも食べてほしい」とピュアホワイト240本を寄贈しました。

一方ワカサギは、洞爺地区が9月11日、虻田地区には9月15日提供されました。寄贈したのは、岡崎 進さん(月浦区)。「洞爺湖で取れる魚を知ってもらい、ワカサギのおいしさを伝えたい」と40*のワカサギを寄贈しました。



とうきびを頬張るとうや小1年生



ワカサギのフライを食べる虻田小6年生

芝生気持ちいい!

温小ポロモイスタジアムで体育授業



9月22日、洞爺湖温泉小学校は、ポロモイスタジアムを使用して、初めて全校での体育授業を実施しました。

当日は、男子、女子のチームにそれぞれ分かれ、ミニサッカーを楽しみました。児童らは「芝生が気持ちよかった」とポロモイスタジアムでの授業に満足気でした。引き続き28日にも、同競技場での体育授業が行われました。



芝生の感触を楽しみながらサッカーを行う温泉小の児童たち

楽しく国際交流

ブルキナファソの野球留学生 温泉小児童と交流

西アフリカのブルキナファソから野球留学で来日しているカファンド・アミドゥさん(19歳)が9月4日、洞爺湖温泉小学校を訪れ、児童らと鬼ごっこや図工の授業で楽しい時間を過ごしました。

洞爺湖町とブルキナファソ野球留学生は、洞爺にぎわいネットワークを通じて、3年前から交流を継続し、毎年野球留学生を受け入れています。



手形を押して児童と交流するカファンドさん

社会を明るくする標語

洞爺湖町虻田地区合同補導委員会は、虻田地区の各小、中、高等学校を通じて「社会を明るくする標語」を募集し、各学校ごとの優秀作品が決定しましたので紹介します。

虻田小学校

さかそうよ 足元注意し その一輪
5年 今谷 豪
悪いこと 見てるのカメラと 何よりボク
5年 工藤陽大
勇気だし 大きな声で あいさつを
6年 氏本 凜

洞爺湖温泉小学校

むしするな してもされても かなしい気もち
2年 熊谷 柊里
仲良しは 思いで残る アルバムだ
4年 口屋諒太郎
気をつけよう ネットの中の 黒いカゲ
6年 高橋ひかる

虻田中学校

見てますよ 人やあなたの 心の目
1年 岡部一輝
弱いのは いじめをしている あなたたち
1年 武井心優
その言葉 心に刺さる 言葉の矢
2年 福島結菜

虻田高校

こんにちは 始まる会話 ゆるむ頬
1年 宮北優衣
夜の道 背後に迫る 黒い影
2年 大西敦史
手を出した 危険ドラッグ 未来ない
3年 千葉亜衣